

原 著

朝日大学 PDI 岐阜歯科診療所におけるインシデントレポートの分析

松 尾 俊 平¹⁾ 横 矢 隆 二²⁾ 服 部 景 太²⁾ 小 嶋 千 栄 子²⁾
若 村 全 仁²⁾ 中 川 晃 輔²⁾ 堤 由 希 子²⁾ 亀 川 義 己²⁾
柴 田 俊 一²⁾ 大 森 俊 和²⁾ 小 川 雅 之²⁾ 藤 原 周²⁾

Analysis of the incident reports in Asahi University PDI Dental Clinic at Gifu

MATSUO SYUMPEI¹⁾, YOKOYA RYUJI²⁾, HATTORI KEITA²⁾, KOJIMA CHIEKO²⁾,
WAKAMURA MASAHITO²⁾, NAKAGAWA KOSUKE²⁾, TSUTSUMI YUKIKO²⁾, KAMEKAWA YOSHIKI²⁾,
SHIBATA SYUNICHI²⁾, OMORI TOSHIKAZU²⁾, OGAWA MASAYUKI²⁾, FUJIWARA SYU²⁾

緒言：朝日大学 PDI 岐阜歯科診療所は、開設以来、医療安全対策に取り組んでいる。そこで今回我々は、医療安全向上を目的として、インシデントレポートを収集し、分析を行った。

方法：調査期間は2007年6月～2015年6月までとした。調査項目は歯科医師および歯科衛生士の経験年数、患者の年齢、発生場所、発生月、発生曜日、発生時間、発生項目とした。

結果：インシデントの総件数は186件であった。歯科医師は経験年数が少ない者の割合が高い傾向であった。歯科衛生士は30年以上が最も多かった。患者の年齢は高齢者の数が多かった。発生場所は診療室が最も多かった。発生月は10～12月が最も多かった。発生曜日は火曜日と金曜日が多かった。発生時間は午前中に多く、午後は減少傾向であった。発生項目は患者対応、予約、X線検査、技工が多かった。

結論：インシデントレポートの収集および分析から、インシデントの実態を把握することができ、医療安全の向上に繋がると考えられる。

キーワード：インシデント、医療安全、歯科医療

Introduction: Patient safety measures have been in place at the Asahi University PDI Dental Clinic at Gifu since its establishment. We collected and analyzed incident reports in order to improve patient safety.

Method: The investigation period was from June 2007 to June 2015. The survey covered years of experience of dentists and dental hygienists, age of patients, location, month, day of the week, time of incident, and type of incident.

Results: A total of 186 incidents were reported. The rate of incidents tended to be higher among dentists with fewer years of experience. For dental hygienists, the rate was highest among those with 30 years of experience or more. Incidents most commonly occurred in patients of older age. The location was most often the examination room. Incidents most often occurred from October to December and on Tuesdays and Fridays. Incidents tended to occur more frequently in the morning and less frequently in the afternoon. Incidents most commonly occurred during patient correspondence, appointments, X-ray examinations, and the creation or repair of dental prostheses.

Conclusion: By collecting and analyzing incident reports, we were able to learn the actual situation of incidents and apply this knowledge to improving patient safety.

Key words: incidents, patient safety, dental care

¹⁾朝日大学 PDI 岐阜歯科診療所

²⁾朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野

¹⁾〒500-8309 岐阜県岐阜市都通5-15

²⁾〒501-0296 岐阜県瑞穂市穂積1851

¹⁾Asahi University PDI Dental Clinic

²⁾Department of Prosthodontics, Division of Oral Functional Science and Rehabilitation Asahi University School of Dentistry

¹⁾Gifu Miyakodoori 5-15, Gifu, Gifu 500-8309, Japan

²⁾Hozumi 1851, Mizuho, Gifu 501-0296, Japan

(平成30年2月20日受理)

緒 言

安全・安心な歯科医療を提供するために、インシデント事例を分析して原因を明らかにし、医療事故を防止することは重要である。

朝日大学 PDI 岐阜歯科診療所(以下 PDI とする)は、学校法人朝日大学附属の教育・医療機関であり、歯科診療および研修歯科医の臨床研修や学生の臨床実習の場である。

PDI の職員数は、歯科医師21名、歯科衛生士8名を含む計35名である。1日あたりの歯科外来平均患者数は約153名である。診療時間は、9:00-17:00で、土曜日は午前のみで9:00-12:30である。休診日は、日曜日および祝祭日である。

PDI では開設以来、医療安全対策に取り組んでおり、2004年よりインシデントレポートの収集を実施している。また医療安全委員会を設置し、インシデント事例を検討し、歯科医療の事故防止に努めている。そこで今回我々は、医療安全向上を目的として、インシデントレポートを収集し、分析を行ったので報告する。

調査対象および調査項目

調査対象期間は、PDI が同敷地内に新築移転した後の2007年6月～2015年6月までとした。

インシデントの調査項目は歯科医師および歯科衛生士の経験年数、患者の年齢、発生場所、発生月、発生曜日、発生時間、発生項目について検討した。発生月に関しては研修歯科医の研修施設の移動や治療に携わ

る期間を考慮し、3ヶ月ごとに分類した。

結 果

インシデントの総件数は186件あり、関与した職種とその件数は、歯科医師133件、歯科衛生士46件、歯科衛生士学校実習生(以下衛生士学校生とする)5件、事務職員2件であった。経験年数とインシデント件数に関しては、0～5年89件、6～9年18件、10～19年28件、20～29年20件、30年以上15件、衛生士学校生5件、経験年数不明11件であった。

歯科医師と歯科衛生士の経験年数別発生件数をみると、歯科医師では0～1年の件数が最大の28件で、次いで1～2年が21件と経験年数が少ない者の割合が高い傾向であった(図1)。

歯科衛生士は歯科医師とは異なり、30年以上の件数が14件と最も多く、経験年数が少ない者の割合は低かった。また衛生士学校生は5件であった(図2)。

患者の年齢別発生件数は61～70歳が25件、71～80歳が26件と多く、高齢者の割合が高かった(図3)。

場所別発生件数は、診療室が126件と最も多かった(図4)。

月別発生件数は、10～12月が66件と最も多く、次に7～9月の49件であった(図5)。

曜日別発生件数は、金曜日が37件、火曜日が36件と多く、土曜日が22件で最も少なかった(図6)。

時間帯別発生件数は、午前中に多く、午後は減少傾向であった(図7)。

発生項目別件数は患者対応が24件、予約とX線検査が23件、技工が22件と多かった(図8)。

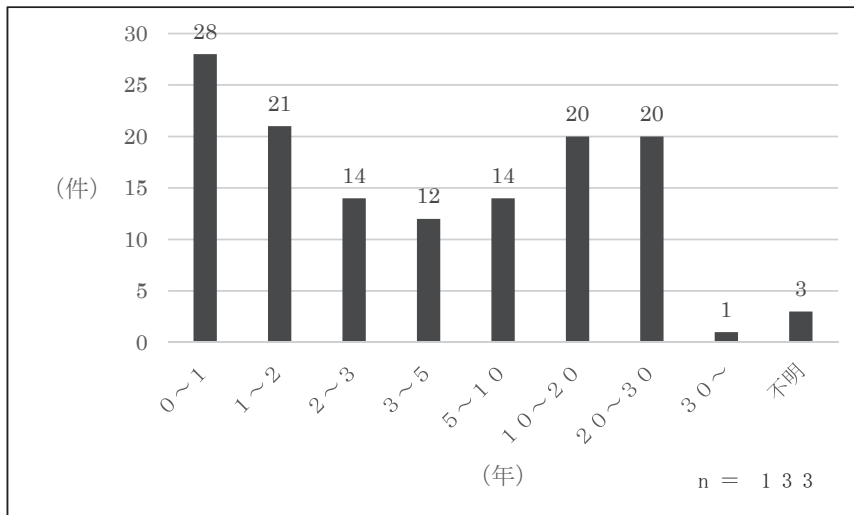


図1 歯科医師の経験年数別発生件数

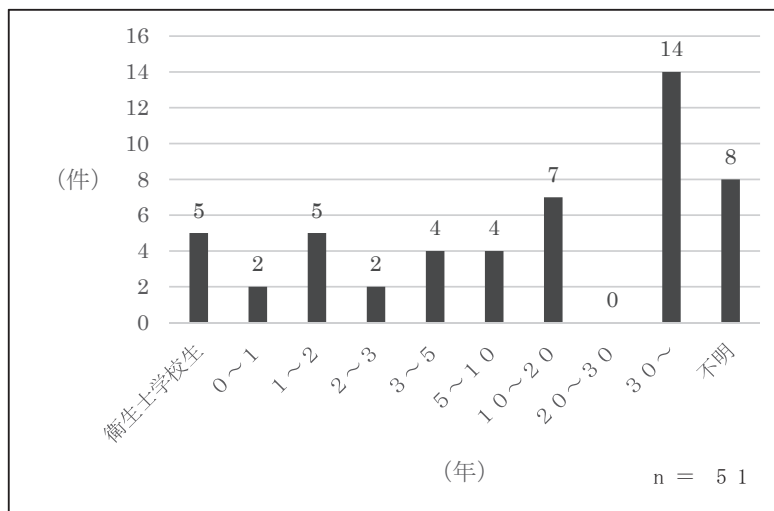


図2 歯科衛生士の経験年数別発生件数

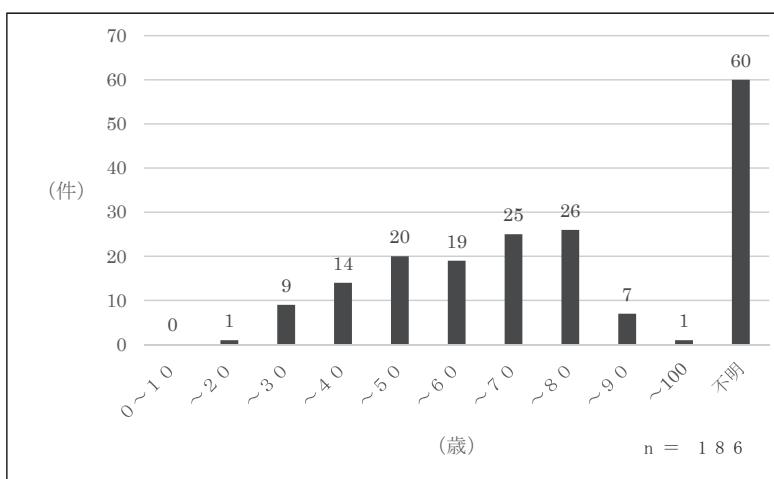


図3 患者の年齢別発生件数

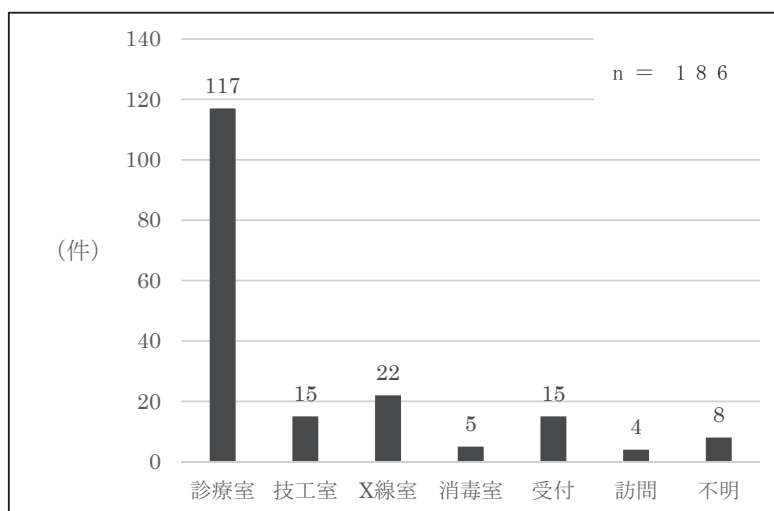


図4 発生場所別件数

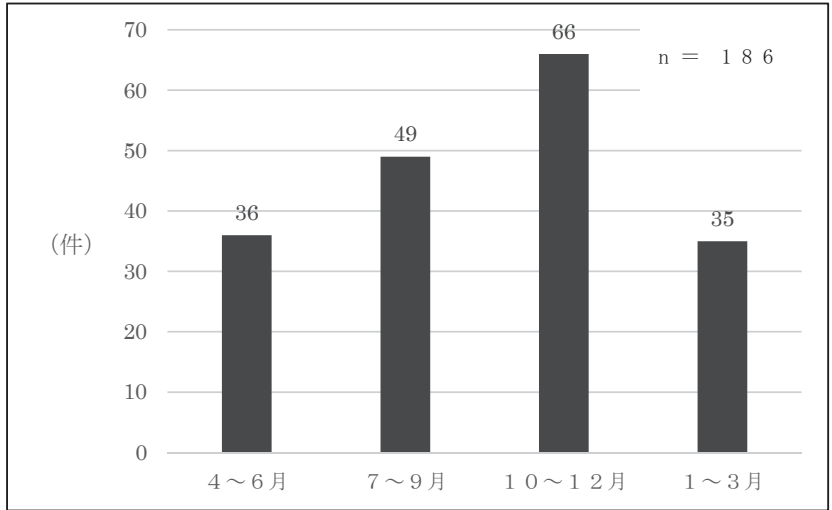


図5 月別発生件数

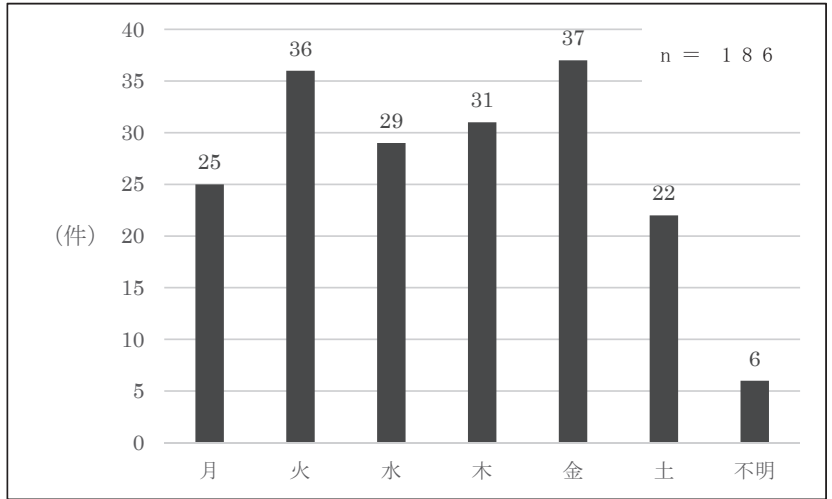


図6 曜日別発生件数

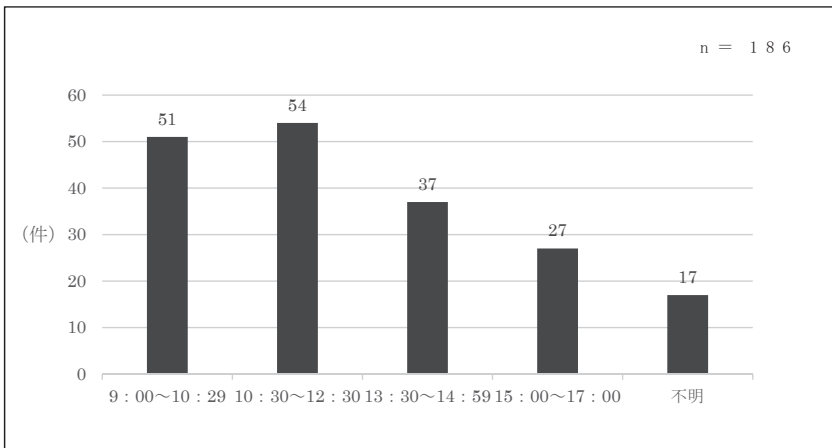


図7 時間帯別発生件数

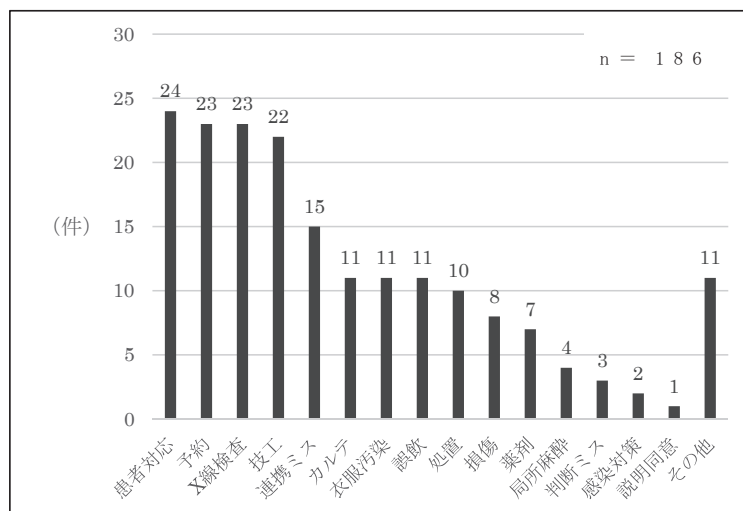


図8 発生項目別件数

考察

インシデントを未然に防ぐためには、収集したインシデントレポートを分析し、予防策を立案することが重要である。またその結果を診療所内でフィードバックし、問題意識を周知、共有することが必要であり、医療安全管理体制の確立が、医療事故の防止に繋がると考えられる。

PDIでの歯科医師のインシデント件数は133件で、そのうち経験年数が5年未満は75件で全体の56.4%である。PDIでは臨床研修施設という性質上、経験年数の少ない者の割合が多いため、インシデント件数の割合も高くなると考えられる。

当事者経験年数5年までの歯科医師の割合で医療事故情報が34.9%でヒヤリハット事例が50%であったという報告¹⁾やインシデント当事者の経験年数について、実務経験の浅い者が多いという報告^{2,3,4)}、また大半の研修医歯科医がヒヤリハット事例を経験しているとの報告⁵⁾もあり、今後は経験年数を考慮したインシデントへの注意の喚起と安全教育の強化が必要であると考えられる。

歯科衛生士では経験年数30年以上の件数が多いが、当事者が不明な場合、歯科衛生士の代表者が代わりに報告している事例もあり、実際には経験年数が少ない者の割合が高い可能性も考えられる。また経験年数が高くなると業務経験の慣れからくる思い込みや判断で起こしていることも考えられ、今後は当事者自身による報告や医療安全委員会での記載不備などの確認の徹底、業務手順の遵守と再確認など、安全意識の向上を図る必要がある。

患者の年齢別発生件数では、割合的に高齢者の数が多く、これはPDIでの初診患者の年齢分布と一致しており、インシデントを予防する上で、高齢者の身体的および精神的、心理的特徴を理解し、対応する必要

性がある。また高齢者に配慮した医療面接、医科への照会による全身状態の把握、処置時のモニタリングの実施なども重要であると考えられる。

発生場所は、診療室が最も多く、これは応対や処置など患者と直接接する機会が一番多い場所であることが理由として考えられる。月別発生件数で、7～9月と10～12月と比較して、4～6月と1～3月のインシデント件数が少ない理由として考えられるのが、PDIでの歯科医師の1年目に当たる研修医歯科医はカリキュラム上、4～6月までは朝日大学歯学部附属病院にて研修を受け、また研修歯科医の一部は、7月～12月までのPDIでの研修終了後、翌年の1月に朝日大学歯学部附属病院に戻るため、研修歯科医にあたる経験年数0～1年のインシデント件数が最も高い結果と関連し、研修歯科医によるインシデントの件数が少なくなったのが一つの原因として考えられる。

曜日別発生件数では土曜日が最も少ないが、休診日の日曜日を除く月曜日から金曜日までの1日平均患者数(約147人)と土曜日の1日平均患者数(約99人)を比較すると、土曜日の診療時間は午前のみなので、時間当たりの発生頻度は土曜日が一番高いと考えられる。

時間帯別発生件数は、午後より午前の方が多く、朝日大学歯学部附属病院と同様であった⁶⁾。原因として、午前は初診患者や高齢者の受診が多く、多忙な時間帯のため発生していると考えられる。

発生項目で多い患者対応と予約は医療者側の説明不足や患者側の思い込み、患者とのコミュニケーション不足が考えられる。これは歯科医療におけるインシデントは「受付・応対・接遇」が最も多いという報告⁷⁾と同様の結果となった。また本橋らのアンケート調査⁸⁾でも患者対応や説明と同意に関する件数は多く、患者

とのコミュニケーションに問題があると指摘している。次に多い X 線検査については、以前のアナログと比べ、デジタルになり現像ミスは少なくなったものの、依然、撮影ミスや撮影部位の間違い、患者情報の入力ミスが認められ、対策として撮影技術の向上、X 線室内での撮影手順の遵守と確認の徹底を促すことが重要であると考えられる。技工関連では誤指示が多く、指示書の再確認の徹底や歯科技工士との連携が重要であると考えられる。連携ミスについては診療従事者間や受付・事務との情報の伝達の不備が原因で起こっていると思われる。診療従事者間での「情報収集・情報伝達の不備」が多く認められ、情報伝達の改善が必要という報告⁹⁾もあり、ミーティングなどを通して、情報の伝達を徹底し、共有することが重要であると考えられる。誤飲・誤嚥などは歯科診療特有の事例で、ファイルなどの根管治療器具やインレーやクラウンなどの歯冠修復物の調整、合着時に多く認められる。研修歯科医のインシデント調査で修復物の落下は高頻度で発生しているという報告¹⁰⁾もあり、誤飲・誤嚥を防止する上で、ラバーダムの使用や口腔内へのガーゼの留置、患者の診療体位の調整などの対策を周知徹底していく必要がある。衣服汚染は朝日大学附属病院でも報告⁶⁾されており、患者の身体上では歯科用薬剤や材料の取り扱いが問題と考えられる。処置および損傷は、合わせると18件と比較的多く、三輪らの報告^{2,4,11)}でも「処置・手術」のインシデント件数は多いと報告されている。歯科治療は鋭利な器具を口腔という粘膜で囲まれた狭い空間で用いることが多く、そこに経験不足、注意不足、確認不足が加わり、インシデントに繋がると考えられる。

今回のインシデントレポートの分析ではアクシデントとヒヤリハットでの分類、患者への影響レベルでの分類、インシデントの件数や内容などの経年的な変化などについては検討していないため、今後、詳細な分析が必要であると考えられる。

PDI では今後も安心・安全な歯科医療の向上を目指し、継続してインシデントレポートの収集・分析・対応策の検討を行い、定期的なミーティングや研修会などを通じて、スタッフに情報を周知、指導し、インシデントに対する意識を向上させ、医療事故防止に取り組んでいく必要がある。

結 論

今回の PDI でのインシデントレポートの収集および分析から、インシデントの実態を把握することができ、医療安全の向上に繋がると考えられる。

引用文献

- 1) 財団法人日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部 医療事故情報収集当等事業平成27年年報、平成28年8月29日、http://www.med-safe.jp/pdf/year_report_2015.pdf
- 2) 三輪全三, 稲田 稔, 宮本智行, 馬場一美, 和達礼子, 鶴澤成一, 岡田大蔵, 高木裕三, 海野雅浩. 東京医科歯科大学歯学部附属病院におけるインシデント報告(平成13-17年度)の集計と分析—歯科に特有な事例についての考察—. 医療の質・安全学会誌. 2006;1:253.
- 3) 宮本智行, 三輪全三, 嶋田昌彦. 当歯学部附属病院における医療安全管理の概要. 障害者歯科. 2009;30:209.
- 4) 三輪全三, 馬場一美, 宮本智行, 高野幸子, 助村大作, 端山智弘, 高橋民男, 淀川尚子, 深山浩久, 洪岡尚武, 小谷順一郎, 森崎市治郎, 土屋文人, 海野雅浩. 歯科におけるインシデント発生の現状と安全管理への取り組み. 医療情報学連合大会論文集. 2007;27:203-204.
- 5) 鈴木淑子, 大下涼子, 峯岡 茜, 田中良浩, 田口則宏, 小川哲次. 臨床研修歯科医のヒヤリ・ハット事例からみた医療安全管理研修. 広歯誌. 2007;39:79.
- 6) 式守道夫, 倉知正和, 大橋静江, 羽田詩子, 田中四郎, 川崎馨嗣, 西田宜弘, 安田順一, 松岡正登, 山田尚子, 中谷 克, 森下ひとみ, 関根源太, 初山正敬, 藤原茂樹, 樋口 賢, 山本剛史, 松本 敏, 玄 景華. 朝日大学歯学部附属病院におけるインシデントレポートの解析. 岐歯学誌. 2010;37:103-109.
- 7) 嶋田昌彦. 歯科医療における安全管理評価法の確立に向けて—歯科医療安全に関する実態調査から—. 日歯歯会誌. 2011;6:26-33.
- 8) 本橋征之, 田中四郎, 住友伸一郎, 松本 敏, 村松泰徳, 式守道夫, 滝川俊也, 倉知正和. 一般歯科診療所におけるインシデントに関するアンケート調査. 岐歯学誌. 2012;39:53-60.
- 9) 坂田充穂, 丹澤 豪, 栗原亜由美, 方山光朱, 横 宏太朗, 岡野友宏. 昭和大学歯科病院におけるインシデントレポートの分析. 医療の質・安全学会誌. 2013;8:34-36.
- 10) 吉田隆一, 住友伸一郎, 岡 俊男, 北後光信, 堀田正人, 岩堀正俊, 横山貴紀, 長谷川信乃, 松岡正登, 田邊俊一郎, 大橋静江, 倉知正和. 2006年度朝日大学臨床研修歯科医のインシデント事例調査. 岐歯学誌. 2007;34:75-76.
- 11) 三輪全三, 馬場一美, 稲田 稔, 宮本智行, 和達礼子, 新井直也, 鶴澤成一, 西村はるみ, 月野さなえ, 落海真喜枝, 海野雅浩. 本学歯学部附属病院におけるインシデント・アクシデント報告書(平成13-14年度)の集計結果. 口腔病学会雑誌. 2003;70:234-241.